探究学習のプログラム開発　各地で進む

高等学校の教育旅行　特集　3～8面

2022年度から高等学校で「総合的な探究の時間」が始まり、修学旅行でも探究学習を重視した活動が増えている。そのニーズをくみ取り、教育旅行を受け入れる地域では、多様な探究テーマに応じられるよう多彩な探究学習プログラムをそろえる動きが出てきた。探究学習プログラムの開発を積極的に推進している3地域の取り組みを紹介する。

宮城県

SDGs「質の高い教育」基盤に
「震災学習」や「農山漁村体験」ともマッチ

宮城県では、「SDGs・探究学習」の教育に力を注いでいる学校のニーズに対応するため、それを教育旅行でも実践できる環境の整備を進めている。県内には探究学習のフィールドが数多い。海、山、大地の豊かな自然、歴史と文化、地域を支える産業が多く存在。そのフィールドを生かし、これまでの「農山漁村体験」「震災学習」に加えて、2021年度から「SDGs探究学習特化型プログラム」の提供を開始した。

SDGs探究学習特化型プログラムは、探究サイクルに沿ってSDGsを深く学べるのが大きな特徴だ。テーマは、エネルギー、環境保全、なりわい、街づくり、防災・減災、歴史・文化・伝統の保全などがあり、今後も拡充予定。講義、体験、フィールドワークなどを通じて、どのような課題があり、どう解決に向けて取り組んでいるのかを学び、地域に持ち帰り学習を深めることができる。

「マンガを生かした街づくり」を学ぶプログラム

特にSDGs「4．質の高い教育をみんなに」を基盤とし、①視野を広げる②知識を深める（事前・現地・事後学習）③共通課題を発見し関連づける―の三つの学びを重視する。受け入れ先となる自治体、企業、高校、大学、農林水産事業者、NPO法人などの協力を得て、現在、106プログラムをそろえる。また、東日本大震災から12年がたち、「創造的復興の歩み」を語り部と歩くプログラムなどを用意する。その他、歴史・文化や自然体験など、多様な学びの場を提供可能。宮城県での教育旅行は、未来を担う次世代がどう生きるかのヒントを見いだせる総合的な学びとなるはずだ。

「環境学習」でのワークショップの様子

また各プログラムは、「事前学習」「現地学習」「事後学習」の三つのステップで学べるように設定。探究学習を始めたばかりの学校や探究学習に慣れていない学校でも、三つのステップでプログラムを行うことで、探究学習の活動サイクルに沿った学習を実現できる。

SDGs探究学習特化型プログラムの受け入れについては、みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター（みやぎ観光復興支援センター）が問い合わせから実施までワンストップで対応。学校や旅行会社のニーズに合ったプログラムをマッチングする。プログラム前後の行程も含めたコース提案など、トータルでコーディネートする。

「環境学習」で漁船に乗船し養殖現場を見学

SDGs探究学習特化型プログラムを実施した学校からの評判はとても良い。「非常に学習効果の高い内容だった。まわりの学校にも宮城のプログラムを広めていきたい」という声もあったほどだ。

今後は、「震災・防災・減災」学習プログラムに加え、修学旅行生が農業、漁業、林業の従事者と一緒に「持続可能な農山漁村」について考え、認知能力だけでなく非認知能力の向上にもつながるプログラムについても開発を検討している。

受け入れ窓口

みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター
（みやぎ観光復興支援センター）
〒980－8570　宮城県仙台市青葉区本町3の8の1（宮城県庁内）
TEL：022－265－8722　FAX：022－211－2829
E-mail:m-kyouiku@miyagi-kankou.or.jp

奈良

持続可能な社会の生きたモデル
歴史文化遺産と無形の文化遺産が豊富

奈良は日本最初の都だ。遷都後も南都七大寺に代表される神社仏閣が栄えた宗教都市として存続。その価値が認められ「古都奈良の文化財」は、東大寺、春日大社、元興寺などの社寺と、神域とされる春日山原始林などを含め世界文化遺産として登録されている。さらに「飛鳥・藤原」でも新たに世界遺産登録に向けた活動があり、南部の吉野エリアも含めて、現存する多数の国宝、重要文化財、世界文化遺産を抱える世界に誇る観光地だ。また、平安時代から神域として一切の伐採や植林を禁じ、保全されてきた春日山原始林や、神の使いとされる鹿を大切にして共生してきた人々の生活や文化は、無形の文化遺産といえる。

ESD・SDGsセンターの教授陣によるSDGs講義

有形・無形の文化遺産を目にすることができる奈良は、持続可能な社会の生きたモデル。地域全体が「SDGsを学ぶフィールドミュージアム」だ。

そんな奈良県に生まれた探究学習プログラムは、「旅マエ」から「旅ナカ」「旅アト」までを考えた体験型。「SDGs教育の最先端である奈良教育大学ESD・SDGsセンターの教授陣によるSDGs講義」と「班別少人数でガイドと対話しながら行うフィールドワーク」「旅マエから旅アトまで利用できるガイドブックによる学習」の三つの学習で構成されている。奈良教育大学の監修の下、新しい学習指導要領に沿った主体的で深い学びにつながる内容となっている。

SDGs講義は、事前に学校の教諭と奈良教育大学の教授とが直接話し合い、各学校のSDGs学習の習熟度や、学びたいテーマに合わせて講義内容を決める。さらに、学校が希望すれば、より専門的な講義にアレンジすることも可能だ。学校側がプログラムの内容を深く理解することで、「旅マエ」での学習の質の向上につながっている。

新学習指導要領に「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となること」という点が追加され、どのような指導を行えばいいのか検討している学校も多い。そのような学校の今後の教育・学習方針のヒントとなるという点でも、同プログラムに対する注目度は高まっている。

受け入れ窓口となるのは、「奈良新しい学び旅推進協議会事務局」。奈良を訪れた修学旅行生が今後、持続可能な社会の創り手として自分の住む地域に貢献することを目指すとともに、奈良への修学旅行誘致を促進して、地域観光産業振興に貢献し、地域経済の持続性の向上を目的として活動している。

奈良県での探究学習プログラムについて同協議会は、「奈良県の数多くの歴史文化遺産を通して、歴史学習だけでなく、1300年の歴史を持つ古都奈良が『過去・現在・未来』へと途切れなく続く理由を考える。さらに有形の歴史文化遺産と、無形の文化遺産も含めて考えることで、SDGsが提唱する持続可能な社会の重要性を理解できる内容にしている」と話す。

奈良県では今後もより深い学びを得られる教育旅行プログラムの開発、提供を行うことで、「SDGsのフィールドミュージアム奈良」という新しい価値を発信し続けていく考えだ。

歴史的な文化財などを見学するまち歩きプログラム

春日山原始林について学ぶコースの様子

受け入れ窓口

奈良新しい学び旅推進協議会事務局
（公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ内）
〒630－8305 奈良市東紀寺町2－10－1
TEL：0742－20－7807　FAX：0742－22－1503
E-mail:manabi-jimukyoku@kirsite.com

長崎市

平和の推進を訴求するプログラム
生徒が主役となったグループワークなど

日本でも類を見ない、独特な歴史を持つ長崎は、出島で世界との交流を行った江戸時代の鎖国期から、幕末を経て産業革命を迎える明治時代、被爆と復興の歴史の昭和まで、幅広い時代の歴史を学べる。市内中心地には和華蘭文化と呼ばれる中国や西洋、そして往時をしのばせる日本の雰囲気が楽しめるエリアが点在し、長崎港を中心にしたすり鉢型の地形のため、斜面地の生活や独特な夜景も楽しめる。

これまで長崎には主に「平和学習」を目的として数多くの修学旅行生が訪れてきた。長崎にとって旅行マーケットの中でも修学旅行は非常に重要なマーケットだ。これをさらに強化するため、従来の「長崎＝平和学習」から「長崎＝探究学習」というイメージへと大きく転換を図ろうとしている。独特な歴史と多様な文化の影響を受けた長崎には、学校教育におけるキーワード「探究学習」の素材も豊富に存在するからだ。

長崎では将来の担い手である若い世代に対して平和の推進を訴求するための探究学習プログラムを用意している。

その一つが、「長崎SDGs平和ワークショップ」。長崎での現地学習で見て、聞いて、グループワークで考えて、話をして、意見を書いて、まとめて発表するという、生徒が主役の学習プログラムだ。長崎での平和推進活動の現状と課題を知り、SDGsの視点で自分たちなら平和推進のために何に取り組むか、その中で個人としてどのような活動をするかという視点でグループワークに取り組んでもらう。現地で見聞きした後に行うため、インプットした情報をアウトプットできる点において非常に学習効果が高いと考える。

長崎SDGs平和ワークショップでのグループワーク

GIGAスクール構想に対応し、デジタル技術を活用した学習プログラムが「長崎平和ARアプリ」。同アプリには長崎での現地訪問の事前学習向けの17コンテンツと、現地学習向けの14コンテンツの計31コンテンツが入っている。現地学習コンテンツでは目の前の景色の被爆当時の姿を見ることができる機能もあり、従来の平和学習にはないプラスαの情報を提供し、学習効果の向上につなげることができる。ガイドとともに被爆遺構をめぐる「ながさき平和・歴史ガイド」が多各期に提供できない際、それに代わるプログラムとしてこのアプリを提案している。

「訪問取材」は、生徒が事前に探究学習のテーマを決め、長崎滞在中に取材を行い、そのテーマについて学ぶという交流型の学習プログラム。事前学習では、長崎の歴史や産業、食文化などがなぜ生まれたのかについて自ら考える。そして、その答えを生徒たちは現地で関係団体や個人に直接会って話をすることで理解を深めていく。

受け入れ窓口となる長崎国際観光コンベンション協会では、「平和学習については、SDGsや探究学習、対話的で主体的な深い学び、GIGAスクール構想などさまざまなニーズに合った学習プログラムを用意している。事前学習や事後学習にも対応しているため、長崎の修学旅行では高い学習効果を得られる」とアピールしている。

31の学習コンテンツが入った長崎平和ARアプリ

ガイドとともに被爆遺構をめぐる「ながさき平和・歴史ガイド」

受け入れ窓口

長崎国際観光コンベンション協会
〒850－0862 長崎県長崎市出島町1の1　出島ワーフ2階
TEL：095－816－0809　FAX：095－824－9128
E-mail:heiwa-guide@nagasaki-visit.com

修学旅行先が多様化

新学習指導要領の完全実施に伴い、今、学校では「探究的な学習」への取り組みが進められている。探究学習は、校内だけで完結できるものではないことから、修学旅行をその場として活用したいという学校も増えてきた。そうした学校のニーズを踏まえ、修学旅行の受け入れ地の多くで、探究学習の過程に対応したプログラムがつくられている。

紙面では、その先進地といえる三つの地域が紹介されている。それぞれが掲げる平和学習やSDGs学習、震災・防災学習は、どれも探究学習における重要な探究課題だが、3地域が共に、地域全体を探究のための学習フィールドとしている点が注目される。また、事前・事後学習へのサポートや訪問先の人々との交流・対話の機会など、探究学習で重視されていることがプログラムに組み込まれているのも学校としてはありがたい。

日本修学旅行協会
理事長　竹内秀一氏

探究課題はさまざまなので、修学旅行を探究学習の場とする学校が多くなれば、旅行先も多様化していくことが予想される。それは、探究学習に適したプログラムがあればどんな地域にも修学旅行が来る可能性があり、それによる地域の活性化が期待できるということだ。さらに、地域の課題をプログラムのテーマとすることで異なる視点が加わり、それが課題解決につながることも考えられるだろう。